

被爆70年のつどい ニュース No.2★

「被爆70年のつどい」実行委員会 〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-5 ゲイブルビル9F 電話 03-3438-1897

◇13:00～「まほうのたね」—F・パブロフ「茶色の朝」より—

作 山谷典子 演出 辻 輝猛

毎日の暮らしの中で感じる違和感。「でも何か言ってもどうせ変わらないし」と思っているうちに世の中はどんどんキナ臭くなっていく…? 「茶色の朝」を原案にした、親子で楽しめる音楽劇。

◇13:35～ メイン企画

「広島・長崎はなんだったのか?— 今を戦前にしないために」

『民主主義ってなんだ?』私には答えられない…」「私は被爆者の運動から民主主義を学んだのよ」

戦後生まれの若者が、被爆者と対話しながら、被爆の実相や被爆者の運動の歴史を、証言、写真、映像、音楽などを通じて知り、被爆者がまさに民主主義を体現する生き方をしてきたことを学び、自分なりの継承のあり方を考えていく。構成劇の中で次の方が証言されます。

◆「原爆」を背負い続ける被爆者の証言



岩佐幹三さん 日本原水爆被害者団体協議会代表委員

広島 1.2 kmで被爆 当時16歳 被爆当時のようすを語る

倒壊した家屋の下敷きとなって母が焼死。妹は第一県女一年生で、建物疎開作業中に被爆、行方不明のまま。



横山照子さん 一般財団法人長崎原爆被災者協議会理事

長崎 当時4歳 被爆者の戦後を語る

父は1.2 kmで被爆し重傷、母と妹は4 kmで被爆。妹はその後失明、戦後生まれの末妹も原爆症に。戦後親族を次々に癌で喪う。

◆ふたたび被爆者を作るな! 基本要求にこめられた思い



吉田一人さん 日本原水爆被害者団体協議会機関紙編集委員

長崎 3 kmで被爆 当時13歳 「原爆被害者の基本要求」にこめられた思いを語る

1980年から4年をかけて、「再び被爆者をつくらないために」を合言葉に、全国から寄せられた意見を一つ残らず反映させて「基本要求」は作り上げられた。

◆被爆者の運動が日本と世界の世論を動かす



藤森俊希さん 日本原水爆被害者団体協議会事務局次長

広島 2.3 kmで被爆 当時1歳 世界の世論の変化を語る

NPT再検討会議のNGOセッション、核兵器の非人道性に関する国際会議（ノルウェー、メキシコ、オーストリア）に参加、発言

◇15:15～ 合唱団この灯

◇15:30～ 多彩なリレートーク



杉山千佐子さん (100歳)

全国空襲被害者連絡協議会顧問
名古屋空襲で左眼失明。民間空襲被害者のために長年活動。



照屋仁士さん

日本青年団協議会会長・沖縄在住
沖縄から、戦禍の記憶を受け継ぎ、「今を戦前にしない」思いを語る。



村上正晃さん

広島平和公園ガイド。国内外の観光客に若者の視点からヒロシマの過去と現在を伝える。



柿沢未途さん

空襲被害者等の補償問題について、立法措置による解決を考える議員連盟事務局長。

富田彩友美さん (広島市立基町高校で被爆証言の絵を描く)

阿部のぞみさん (全日本教職員組合 青年部事務局長)

根本雅也さん (被爆70年調査企画者)

瑞慶山茂さん (弁護士、沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士)

高校生平和ゼミナール

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

◇16:20～ 会場からの声

◇16:40～ 閉会挨拶 実行委員長 田中熙巳

【被爆70年のつどいに寄せられた賛同メッセージの一部をご紹介します】★

(敬称略、順不同)

小林 節(慶応大学名誉教授、弁護士)被爆70年のつどいよびかけ人

日本国からは正当な補償と謝罪を、世界からは非核の良心を、若い世代からは不戦の決意を私たちの努力で勝ち取りたい。

瑞慶山 茂(弁護士、沖縄・民間戦争被害者の会顧問弁護士団長)被爆70年のつどいよびかけ人

全民間戦争被害者の救済を！ 国家補償制度の確立を！

濱谷 正晴(一橋大学名誉教授)被爆70年のつどいよびかけ人

〈原爆死者〉たちに思いを馳せよう！ かれらの〈死〉とそこにいたる〈生〉とを知ろう！ その証は私たちの手の届くところに、無数にある。

舟橋 喜恵(広島大学名誉教授)被爆70年のつどいよびかけ人

「被爆者とともにあゆむ」これが日本の将来をきめるスローガンです。

有原 誠治(映画監督、被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員長)

被爆者の70年の歩みは、私たちの道標です。被爆者の声は、核時代を終わらせるための希望です。それを次世代に繋ぐために、微力ながら力を尽くしたいと思います。

宇都宮 健児(弁護士、元日本弁護士連合会会長)

今年は戦後70年、節目の年です。戦争関連法案が国会に提出され、審議されている現在、正に「戦前」にしないために歴史を振り返ることが極めて重要な課題になっていると思います。

小野寺 利孝(弁護士、上野の森に「広島・長崎の火」を永遠に灯す会理事長)

今日こそ「広島・長崎」の歴史認識が鋭く問われています。集会の問いかけを深め、認識を共有することこそ、今後の反核・平和のたたかいに必要とされる力ではないでしょうか。

鎌田 慧(ルポライター)

被害者の補償もせず、また戦争を始めようとする安倍政権に強く抗議します。

鈴木 瑞穂(俳優)

1945年8月6日広島での原爆炸裂を江田島から目撃した者として、今国会で問題になっている「戦争法案」は絶対に許せません。「戦争を知らず、歴史からも学ばず、未来への想像力にも欠けた」愚劣な政治家も許せません！

野口 聡一(宇宙飛行士)

世代を超えて、日本、そして世界中の皆さんが想いを一つにして「平和のために今できることは何だろうか」と考え、行動しましょう。皆さんの行動が、「人類愛」と「寛容」を基にした真の国際平和に繋がることを心からお祈りしております。

渡辺 えり(俳優)

戦争を起こすのも止めるのも人間。私たち一人一人がやめようと思えば、やめられるはず。正義のための戦争などはありはしない。

株式会社こまつ座

被爆70年、戦後70年。難しいことでなく、大切な人に何を残していきたいのか、考える一年にしたいです。

日本平和委員会

被爆70年を核兵器廃絶への転機の年に！ 戦後70年を憲法を守り活かす年に！

美術家平和会議

歴史を省みない政治に怒りを覚えます。今こそ広島・長崎に学び、戦争をしない国にしましょう。